

事務事業名	美術館協力会支援事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12481												
			所属課室	市立美術館		課長名	秋山弘												
	☐ 実施計画事業		所属担当	美術館総務		担当者名	秋山弘												
基本政策	基本計画体系	V 個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目									
政策		22 生涯学習ネットワークの整備充実	事業区分	01	一般	1	0	0	4	0	1	0	3	0	0	5			
施策		35 生涯学習システムの推進		☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業															
				☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業															
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 3 年度)		法令根拠	☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金															
	☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)																		
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 名取春仙の画廊の調査研究・作品の収集を行い、その成果の情報提供及び収集作品の永久寄託、また企画展等の美術館運営に協力することを目的としている会が行う研修旅行に対し、補助金を交付する事業。団体の活動費は会費でまかなっている。視察研修は、参加費・会の補助・市の補助(バス代)で行っている。			事業費の主な内訳 (22年度)															
				項目(細節)				金額(千円)				項目(細節)				金額(千円)			
				協議会・協会補助金				190											
												計				190			

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	総会・会報誌の発行、企画展協力、会員視察研修、桜麗忌
23年度活動予定	総会・会報誌の発行、企画展協力、会員視察研修、桜麗忌
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
美術館協力会会員	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
春仙美術館の作品収集・調査研究に対して協力会の独自の観点からの作品収集・調査を行う。美術館協力会会員相互の親睦と見聞を広める	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
地域に根付いた芸術文化を推進する	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 研修参加人数	人数
イ	
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 会員数	人数
イ	
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 研修会参加者の割合	%
イ	
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 美術館を身近な施設と回答した割合	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	190	190	190	0	0		
	事業費計 (A)		千円	190	190	190	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人								
		延べ業務時間	時間								
		人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	0	0	0	
		(A)+(B)		千円	190	190	190	0	0	0	0
活動指標		アイウ	人数	69.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0		
		アイウ	人数	179.0	180.0	180.0	180.0	180.0	180.0		
対象指標		アイウ									
		アイウ									
成果指標		アイウ	%	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0		
		アイウ									
上位成果指標		アイ	%								

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	地元出身の名取春仙の美術館を作ろうと市民(協力会の前進)から声上がり、平成3年に春仙美術館として開館した。そのため美術館が開館した当初から行われている。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	大きな変化はなし
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	研修会のバス代の補助のみなので改革改善の必要がないと考える。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	

事務事業名	美術館協力会支援事業	所属部	教育委員会	所属課	市立美術館
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 協力会の春仙その他の文化芸術に対する意識の向上			
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 協力会は、美術館立ち上げ当初から当美術館にかかわり、永久寄託作品も多数ある。企画展時には小冊子を作り全戸配布を行うなど、美術館の運営にも多大な貢献をしている			
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 美術館の運営に協力してもらっているため、見直しの余地はない			
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 研修時の補助しか行っていないため、これ以上は向上の余地がない			
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない			
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	<table border="1"> <tr> <td> ☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 </td> <td> ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 </td> </tr> <tr> <td>永久寄託品、再筆の発行等多大な貢献をしているため、廃止をした場合、寄託品の撤収等が考えられる</td> <td>永久寄託品、再筆の発行等多大な貢献をしているため、廃止をした場合、寄託品の撤収等が考えられる</td> </tr> </table>	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】	永久寄託品、再筆の発行等多大な貢献をしているため、廃止をした場合、寄託品の撤収等が考えられる
☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】	☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】				
永久寄託品、再筆の発行等多大な貢献をしているため、廃止をした場合、寄託品の撤収等が考えられる	永久寄託品、再筆の発行等多大な貢献をしているため、廃止をした場合、寄託品の撤収等が考えられる				
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 これ以上の予算の削減は、事業の廃止と変わらない			
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方・見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 この事業には、ほとんど人件費がかかっていないため			
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 協力会の美術館に対する貢献度を考えると妥当である			

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	研修会のバス代の補助のみなので現状維持でよいと思う。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
①無し ② ③																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
①無し ② ③	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>⑫</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>⑥</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	⑫	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑫																					
コスト削減優先度評価結果	⑥																					